

令和2年度第2回大阪府環境審議会温暖化対策部会(8月3日)における御意見と対応まとめ

No	該当ページ	御意見	対応
1	5	熱中症の増加が問題となっていることから、ここで記載しておくべきではないか。	熱中症搬送人員数に関する記述と推移表を追記し、2018年7月豪雨や同年の台風第21号の被害に関する写真を追加
2	5	府民の意識向上は重要なポイントである。熱中症や農産物被害など、気候変動による危機感を身近に感じてもらうような情報を記載してはどうか。	
3	14	大阪府環境審議会では、“ゼロカーボンおおさか”と表現されていて、短くて分かりやすいと感じた。本資料の表現は、前半「大阪から世界へ・・・」の部分が長いので、後半の「二酸化炭素排出量実質ゼロへ」と順番を入れ替えてはどうか。	「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を前面にして、「大阪から世界へ・・・」の部分を後ろに記載
4	14	「賢い買い物」という表現について、環境に配慮などにした方がよいのではないか。	「地場産品・省エネ製品など二酸化炭素排出削減につながる商品・サービスの購入・・・賢い選択「COOL CHOICE」を実践する。」と修正
5	14	「賢い買い物」の「賢い」という意味が曖昧なので、わかりやすい表現にした方がよいのではないか。	
6	14	将来像のイメージ図において、災害に対する都市の強靱化(レジリエントな都市)に関することも記載してはどうか。	図の一番下に、ZEH、ZEBはレジリエンス向上にも寄与する旨を記載
7	15	どうしても削減できないCO2を森林吸収等により相殺とあるが、大阪の森林規模からすると難しいと考えるので、表現を工夫すべきではないか。	森林吸収のほか「域外での貢献等」を追記
8	16	P31のコンパクトシティについて、アフターコロナの対応として分散化が進むと言われており、ニュータウンの再活性化などを踏まえてどのように省エネ・創エネ政策をやっていくか、検討が必要ではないか。	P16の「2030年に向けた対策の基本的な考え方」において、コロナ危機と気候危機への取組みを両立する観点や、ポストコロナ社会で進展すると予想されるデジタル化による効率化、集中から分散化への転換などの変化を持続的な経済成長とCO2削減につなげていく旨を追記
9	16	P19のアンケートにあった国の計画の目標数値が知られていないことは、伝える側にも問題があり、府民意識だけの問題ではない。温暖化対策は府民一人ひとりに押し付ける問題ではないので、すべての主体の意識改革・行動喚起としてはどうか。	「府民一人ひとり」を「あらゆる主体」に変更するとともに、P18の本文中に、(行政が)適切な情報発信を積極的に行うことが必要である旨を追記
10	16～17	人口減少などのデータについて、肯定的にとらえているのか、避けられない将来としてとらえているのかわからない。府が温暖化対策を積極的に進めることで人口減少を抑制するぐらいの姿勢があってもよいのではないか。	人口減少により総エネルギー消費量が減少する一方で、一人あたりのエネルギー消費量が増加する可能性があることについて追記 また、社会課題に対処しながら産業・経済の活性化を促し、若者から高齢者まであらゆる世代が暮らしやすく活気にあふれる社会の実現をめざすことを追記。
11	16～17	人口減少の影響をそのまま受け入れるのではなく、若者が入ってきて産業を維持し、環境にも良いまちをつくっていくようなイメージで、もう少し記載して欲しい。	なお、人口減少によるCO2の減少については、今後計画策定の段階で数値目標を算定する際に、将来推計も踏まえて計算を行う。
12	16～17	温暖化対策を通じて大阪の価値を高めるような方向性を示してはどうか。	

No	該当ページ	御意見	対応
13	19	アンケート結果として年代差はなかったとあるが、若い世代の意識が低いのが日本の特徴であるため、将来の温暖化問題に対峙する世代であり、何か訴える必要があるのではないかと。	特に将来の温暖化問題に対峙する若者世代に対してしっかりと情報発信・啓発を進めることが重要である旨を追記
14	23	製造品出荷額等あたりの産業部門のエネルギー消費量について、物価補正をしているのか。また、文章に記載されているように減少傾向とまで言えるのかどうか。	産業部門及び業務部門のエネルギー消費量について、府内総生産(実質)のうち該当する産業分類における金額あたりのグラフに差し替え また、産業部門の文書は概ね横ばい傾向という表現に修正
15	24	グリーンボンド発行額をあげているが、単位が億円となっている。ESG投資全体では桁がもう少し大きいと思う。そちらを使った方がよいのではないかと。	日本のESG投資残高のグラフに差し替え
16	24	大規模事業者と中小事業者の排出量の比率又は生産額等を記載して、中小事業者が多い大阪の産業構造・特徴を示してはどうか。	大阪府は、中小事業者数が全国第2位であるとともに、製造品出荷額に占める中小事業者の割合は約6割であるなど、中小事業所に強みがあるという特徴を追記
17	28	水素の導入に関して、再エネと組み合わせて使う上では、短時間では蓄電池、長時間では水素というイメージがあるが、蓄電池のことが書かれていないので、記述してはどうか。	蓄電池に期待されていることや、水素・燃料電池や蓄電池は再エネとの組み合わせで分散型電源として活用することにより地域のレジリエンス向上に寄与する旨を追記
18	28	水素は再生可能エネルギーを含め多種多様なエネルギー源から製造し・・・の部分で、再エネから作る場合と化石燃料からCCUSをして作る場合の2種類の説明がわかりにくいため、もう少しわかりやすく記述してはどうか。	再エネから作る場合と化石燃料からCCUSを活用して作る場合の2種類の製造方法を記載して分かりやすくなるように修正
19	31	置き配による再配達削減とあるが、宅配ボックスは有効な手段であるので入れるべき。	「宅配ボックスの設置」を追記
20	32	マイクロプラスチック、マイクロビーズに関することも取り上げるべき。	文章中にマイクロプラスチックに関することを追記
21	33,44	一般廃棄物の廃プラスチック焼却量を取組指標として入れているが、プラスチックの焼却によりCO2が排出されることが記述されておらずわかりにくいのではないかと。	プラスチックごみの削減がCO2の削減につながる旨を追記。また、取組指標の設定については、現在改定中の循環型社会推進計画との整合を図っていく。
22	33,44	廃プラスチックの焼却量とだけ書くと、埋め立てればいいのか、という話になる。全体量を減らすという観点が重要である。取組指標の設定についても、慎重に検討されてはどうか。	
23	36	森林吸収・緑化に関して、他の項目にあるようなグラフがついていない。森林整備などで何か数値が出せないか。	森林経営計画の累計面積の推移に関するグラフを掲載
24	44	①～⑦の項目それぞれに取組指標をあてはめてはどうか。	取組項目ごとに取組指標例を表示するように修正